

# コロニー中央病院だより

## 「胃ろう・栄養外来」 のお知らせ

担当 毛利(小児外科医師)  
山崎(管理栄養士)

毎月第3木曜日午後  
(予約制)  
詳しくは外来予約室  
看護スタッフへ

このようなことはありませんか

以前に比べて体調がすぐれない…元気がない…  
何年も栄養の質や量が同じまま知らないうちに痩せてきていませんか

栄養の量や回数、内容について相談してみたい

今のところご飯は何か食べられるが難しくなってきた…

ミキサー食を作っているが、量の相談や作る時のコツを知りたい

胃ろうについて手術を受ける前に一度話を聞いてみたい

## 胃ろう・栄養外来始めました！

これを読まれている皆さんの中で、人生の楽しみの一つは食べること、という意見に賛成の方はどのくらいいらっしゃるのでしょうか。一般的には「賛成」「いやや賛成」という意見とのことです。しかし、悲しいながら食べることの楽しみが生まれながら制限されている子どもさんや、成長とともに食べることが難しくなってしまう方が多くいらっしゃいます。そして、言うまでもなく、私たちの身体は食べた(管からの注入を含む)ものからできており、栄養は健康のためにととても大切です。

身体の面では呼吸、循環(心臓や血管の働き)、神経(脳やてんかんについて)などについては各診療科でより良い方向に進むように診療がなされていますが、栄養や食べることに関してはあまり関与される場所が少なかったように思います。このため、多くの言葉で欲求を言えない患者さんたちに、どんな食べ物、どんな経路で、どんなタイミングで、どんなことに気を付けながら摂っていただくことが良いか、介護されている方たちはとても迷われます。

生まれながらお口から食べられない人にも、途中で食べることが難しくなっている人にも食事が「楽しみ」であり、「辛い」行為にならないように、そして欲求を言えない人が知らない間に栄養不良に陥ってしまうことを防ぐ目的で胃ろう・栄養外来を開設しました。外来を開設して約半年、徐々に近隣の病院・施設からのご相談も増えてきておりお待たせすることも出てきています。お急ぎの方は通常の外科外来に回っていただくことも可能です。そして外来でお話して感じることは何よりお母さん、お父さん方の優しさや情熱で、お子さんの **GOAL**(生活の質) をよりよくするためにいろいろ工夫と努力をされていらっしゃる、感服するばかりです。

胃ろうを考えておられる方、すでに胃ろうを持ってらっしゃって困りごとのある方、上手に食事を摂ることが難しい方の栄養や体格の相談など、小児外科医師と管理栄養士と一緒に考えましょう。なお外来には、当院自慢の食べても注入してもよいミキサー食や各種サンプルも用意しています。毎月第3木曜日午後予約制お待ちしております。

予約は当院外来予約室まで。(小児外科医 毛利純子)



### ■中央病院の理念と基本方針

私たちは成長や発達に支援を必要とする方々に、より良い医療を提供するように努めます。

- 1 胎児期から成人までを対象とし、患者さんの目線に立ったやさしく安心できる医療を行います。
- 2 心とからだの成長・発達に影響する子どもの疾患を総合的に診断し良質な医療を専門的に提供します。
- 3 患者さんが自立した生活ができるよう、在宅支援や地域との医療連携を推進します。
- 4 成長・発達に影響する病気の原因追究および治療法の開発を発達障害研究所やこばと学園と協力して進めます。

# コロナー利用者の地域生活移行と

## 新センターの施設整備状況

### ○利用者の地域生活移行

平成27年度に引き続き、28年度も県内に新たな重症心身障害児者施設が整備され、こばと学園から岡崎市の三河青い鳥医療療育センター（済生会）に15人と、27年度に開所した一宮医療療育センター（杏嶺会）に28年度は9人の方が移行されました。重症心身障害児者以外の施設にも1人が移行し、合わせて25人の方が移行されました。29年度は、豊川市の信愛医療療育センター（明世会）に4人の方が移行され更に1名が予定されております（8月10日現在）。

こばと学園は28年6月に新築した「こばと棟」へ93人の方が引越しましたが、その後、新たな利用者を受け入れており、現在は105名（短期利用者は含まず）となっております。

コロナーの養楽荘は、高齢者の施設に移った1人を含め、平成28年6月に全員の方が退所され、7月1日には施設を廃止し、47年の歴史に幕を閉じました。

また、29年度は、はるひ台学園で生活をしている18歳以上の22名の方が、社会福祉法人養楽福祉会のはるひ荘に移行し、1名の方は自宅に帰られました。これにより、はるひ台学園は18歳未満の方のみになり、福祉型障害児施設の本来的な姿となっております。

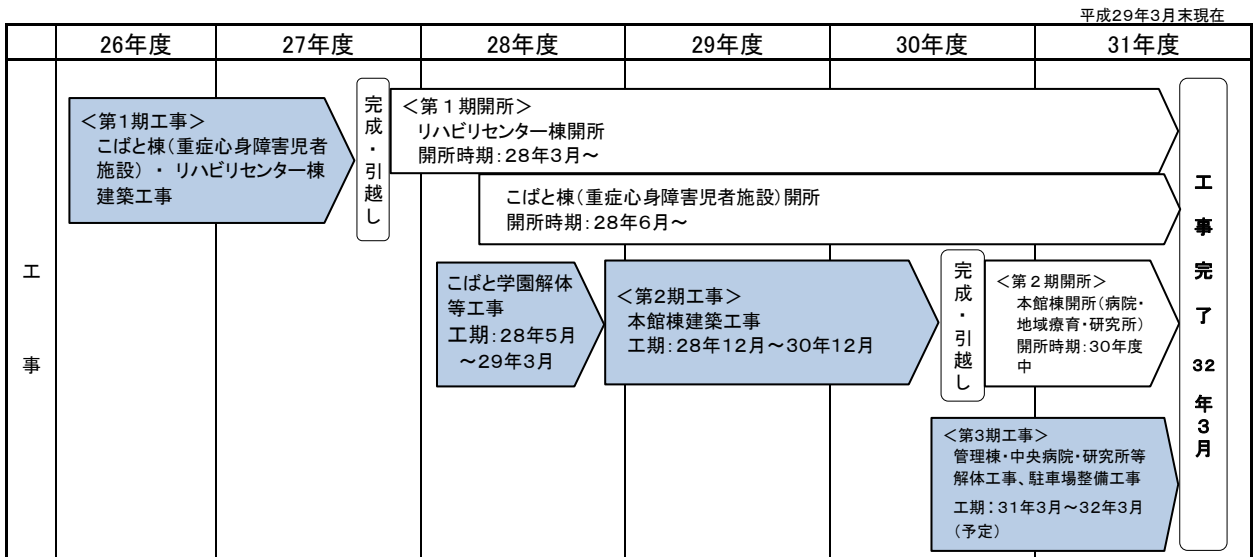
### ○施設整備 旧こばと学園解体工事等の施工と第二期工事の着工

第一期工事は平成27年度末に終了し、新こばと棟（重症心身障害児者施設）でのこばと学園利用者さんの生活も一年が経ちました。また、中央病院リハビリセンター棟も平成28年3月の稼働開始から1年半が過ぎようとしております。旧こばと学園解体工事及び解体に伴う屋外切回し電気・管工事が終了し、その跡地に医療療育総合センター（仮称）第二期工事として建築工事を始めとする本館棟建設工事が28年12月に契約締結され、29年2月から準備工事が始まりました。今年度は地下1階からいよいよ躯体工事が始まり、今後来年度にかけて各階に順次内装仕上げ工事が行われていく段階となっております。現時点では30年12月に完成する予定です。

### ○新センターの組織再編検討

平成30年度中の医療療育総合センター（仮称）本館棟の完成及び中央病院を始めとする移転を控え、新センターをどのように運営していくのか、具体的な事業内容や運営方法及び組織体制等について、28年度に再編推進会議及び部門別検討会議を開催して検討を行い、29年2月に「運営計画」としてまとめられました。

医療療育総合センター（仮称）整備スケジュール



## 第34回日本二分脊椎研究会が開催

2017年7月8日(土) 名古屋国際センター

コローニ中央病院小児外科が事務局となつて開催されました。この研究会は脳神経外科、整形外科、泌尿器科、小児外科などの異なる診療科の医師や看護師、さらに理学療法士や心理士、二分脊椎症協会(患者会)などが一堂に会して意見を交換するちよつと変わったものです。

二分脊椎症患者にとつて、初期治療を受ける新生児・乳児期が重要なのは当然ですが、その後のさまざまなライフステージにおいて生じる身体的、精神的变化に対して医療・福祉・教育の提供側が、その体制を含めて十分に対応できているとは言えません。そこで、**今回(研究)の集まりは活発な議論がなされました。**脳神経外科のセッションでは、再発留や成人期発症の脊髄繫留症状(腰痛や下肢の痛み、しびれ、突っ張り感、排尿・排便障害など)が手術で改善した症例や、成人期のシャントトラブルなどで他施設を受診する際の医療連携の必要性・重要性が報告されました。整形外科では、足関節や股関節、皮膚病変などのリスク評価ツールが紹介され、また、長・短下肢装具の工夫や、遠隔期合併症である足の褥瘡に対する $\infty$ 関節固定術などの手術的治療やそのための $\infty$ D実体モデルの有用性が報告されました。泌尿器科・小児外科からは膀胱拡大術例の長期成績や成人での腎機能障害例や腎機能低下の予測因子の検討などが報告されました。看護・心理からは男性の性的問題や二分脊椎外来の現状、二分脊椎児の知的発達の特徴などが報告されました。

第34回 日本二分脊椎研究会  
The 34th Annual Meeting of the Japanese Spinal Bifida Study Society



### アピール1

#### 【麻酔科って?】

手術や検査の苦痛を軽くするために麻酔をかけています。麻酔科医は皆さんを眠らせているだけではなく、体の状態が快適であるようにそばで見守っています。

### アピール2

#### 【安全な麻酔のために】

安全に麻酔のために術前に採血、心電図、胸のレントゲンをとります。皆さんに会う前に手術を受けられるかどうか評価します。必要であれば追加の検査をお願いしたり、合併症によってはしっかりコントロールしてから手術を受けていただきます。

### アピール3

#### 【問診】

直接お目にかかり、今までの既往やアレルギーなどを確認します。手術室に入ることに不安や抵抗がある場合は眠くなるお薬を飲んだり、ご負担のない方法をご提案します。

### アピール4

#### 【手術だけでなく】

通常であれば起きていてもできるような処置や検査であっても、恐怖心が強かったり、じっとしてられないような方には全身麻酔を行っています。

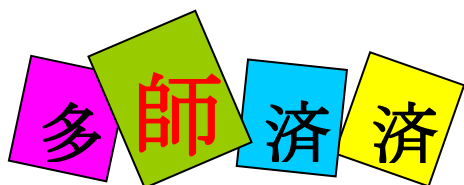
### アピール5

#### 【鎮痛対策】

術後の痛みは手術によってもまた人によっても様々です。点滴薬、局所麻酔薬、神経ブロック、硬膜外麻酔、座薬、内服薬などを組み合わせて対応しています。



## スタッフ紹介



言語聴覚士 加藤智浩



皆様は言語聴覚士（ST）という職種についてご存知でしょうか。最近になって少しずつ知名度が上がってきているようですが、他のリハビリ職種と比べるとまだまだマイナーだと感じています。そもそも ST は1997年に国家資格となった、歴史としては20年程度のまだまだ若い資格です。有資格者数も年々増えてはいますが、2017年3月時点で約2万9千人と他のリハビリ職種と比べてとても少ないのが現状です（ネットで調べると、理学療法士（PT）は約15万1千人、作業療法士（OT）は約8万5千人いるようです）。

人数が少ないという事は当然 ST がいる病院や施設等も少なく、ST の訓練や援助を受けたいけれど受けられる場所がみつからない、といった声を度々耳にします（特にお子さんのケース）。幸いに当院は ST が所属しており、ことばやコミュニケーションについての援助を行うことができますが、人数が少ないのは当院も同様に慢性的なマンパワー不足にあります（これを書いている時点ではコロニー全体でも一人しかいません）。そのため、相談に来られた方全てを訓練する事は難しく、いざ訓練を開始しても頻度や時間を十分確保できないのが現状です。

少ない機会を有益なものにする為に、訓練ではお子さんへの関わり方等保護者へのアドバイスを重点的に置いています。訓練を通してお子さんが保護者と一緒に成長していく過程に立ち会えることはとても光栄で僕にとっての喜びです。

これからもたくさんの成長に出会えるように臨床に励んでいく所存です。ことばやコミュニケーションについての相談を希望される方はぜひ主治医に伝えて言語相談にお越しくください（場合によってはかなりの待ち時間がありますがご容赦ください）。

## ～問診票～

- 出身地はどこですか？  
愛知県瀬戸市
- コロニー在籍何年ですか？  
4年
- 趣味は？  
現在模索中
- 血液型は？  
AB型
- 猫と犬どちらが好きですか？  
猫も悪くないですが犬派です
- 最近、気になるニュースは？  
コロニーの新病院について、名前とか
- マイブームは？  
ネットショッピング、ついポチってしまいます。
- コロニーで好きな所は？  
夜のバス停、暗闇と静寂が勤務後のざわついた心を静めてくれます。